

美しく安全で快適なまちづくり

～無電柱化推進パネル展開催～

まちに数多く設置されている電柱や、はりめぐらされた電線は、景観を損なうばかりでなく、道幅を狭めたり、災害時に生じる電柱の倒壊や電線の垂れ下がりなどさまざまな問題が指摘されています。

国土交通省では、これらの問題を解決するために、道路の防災性能の向上、通行空間の安全性・快適性の確保、良好な景観の形成等のさまざまな観点から、電線共同溝等の整備により無電柱化の推進を推進しています。

青森河川国道事務所では、11月10日が「無電柱化の日」として制定されていることから、この日を含む期間中、無電柱化の現状や推進にあたっての取り組みを皆さんに広くお知らせするためパネル展を開催しています。

記

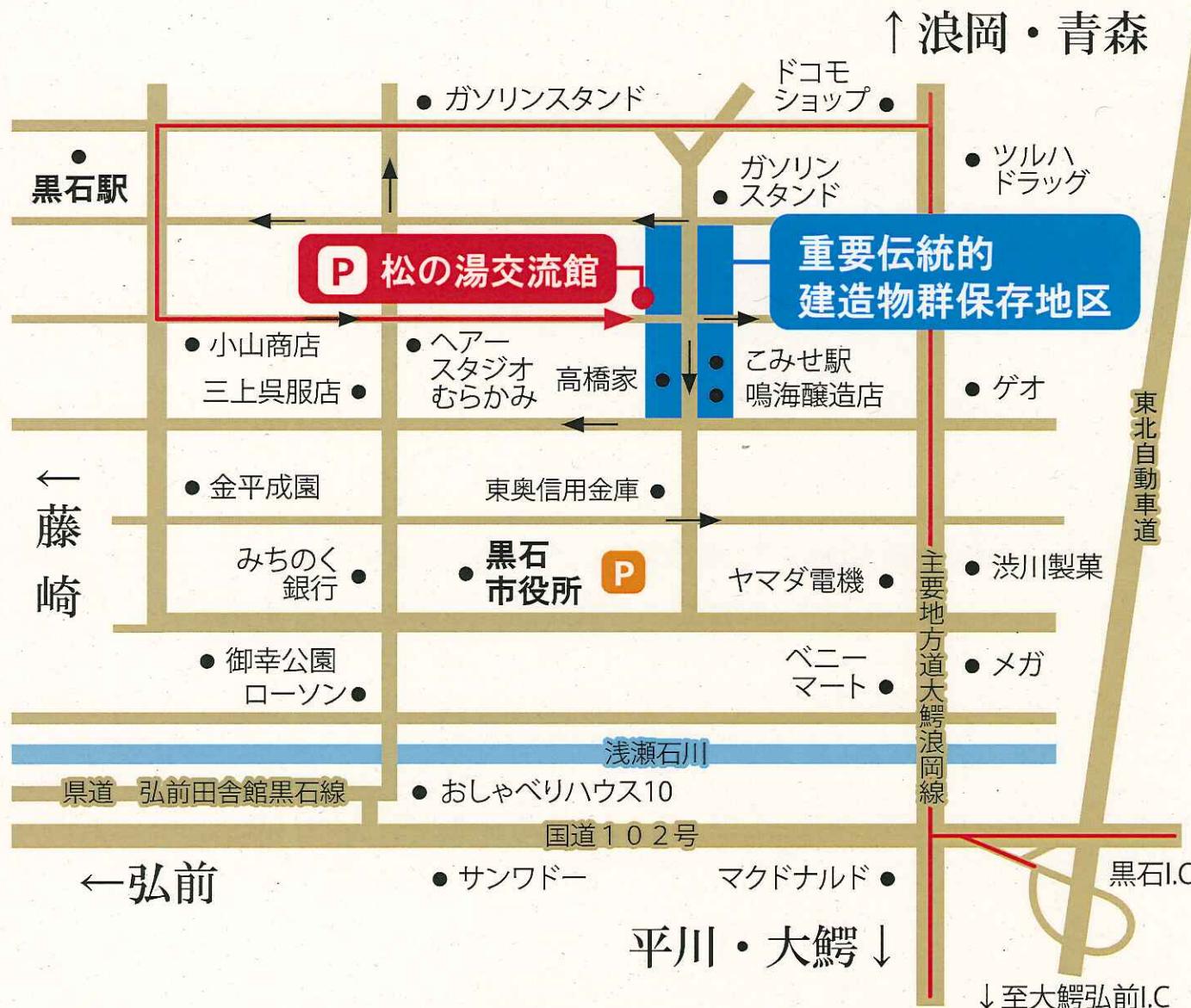
1. 開催期間 平成28年11月8日（火）から11月20日（日）
2. 開催場所 黒石市 松の湯交流館市民サロン（こみせ通り）
3. 配付資料 パネル例、会場案内

※無電柱化の日

11月10日の「111」が電柱でそれが「0」なので「無電柱化の日」として平成26年に制定されました。

発表記者会：青森県政記者会、建設関係専門紙、津軽新報社

〔問い合わせ先〕 国土交通省 青森河川国道事務所
道路管理第二課 課長 鈴木 浩
専門職 田嶋 正樹
TEL 017-734-4574



黒い矢印は一方通行になります。

郊外から自動車でお越しの際は赤い矢印の順路でお越しください。

また、駐車場は松の湯交流館隣接駐車場(大型車両不可)または黒石市役所をご利用ください。

無電柱化のメリット

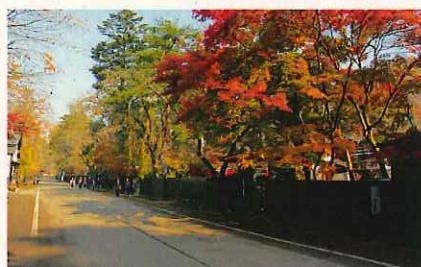
メリット 1 | 良好的な景観形成、観光振興

地上に張りめぐらされた電線類がなくなり、美しい街並みが形成されます。

山形県鶴岡市



秋田県仙北市角館町



歩きたくなる道へ

メリット 2 | 通行空間の安全性、快適性の確保

電柱や電線類がなくなると、道路の見通しが良くなり、信号機や道路標識が見易くなるなど、交通の安全性が向上します。また、歩道が広く使えるため、歩行者はもちろんベビーカーや車いすを利用するの人にも安全で利用しやすい歩行空間が形成されます。

山形県山形市六日町（山形山寺線）



整備前



整備後

安全な道へ

メリット 3 | 道路の防災性能の向上

台風や地震などの災害時に、電柱が倒れたり、電線類が垂れ下がったりするといった危険がなくなります。



〔東日本大震災〕

宮城県本吉郡南三陸町（国道45号）



〔低気圧〕

秋田県秋田市下浜（国道7号）

災害に強い道へ



無電柱化の整備状況

無電柱化の整備状況(国内、海外)

欧米やアジアの主要都市と 日本の無電柱化の現状

ロンドン・パリなどのヨーロッパの主要都市や香港・シンガポールなどのアジアの主要都市では無電柱化が概成しているのに対し、日本の無電柱化率は東京23区で7%、大阪市で5%と立ち遅れています。

※1 ロンドン・パリは海外電力調査会調べによる2004年の状況(ケーブル延長ベース)

※2 香港は国際建設技術協会調べによる2004年の状況(ケーブル延長ベース)

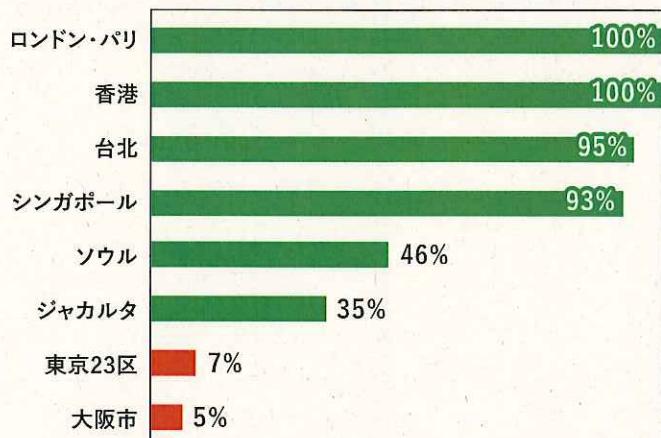
※3 台北は国土交通省調べによる2013年の状況(道路延長ベース)

※4 シンガポールは海外電気事業統計による1998年の状況(ケーブル延長ベース)

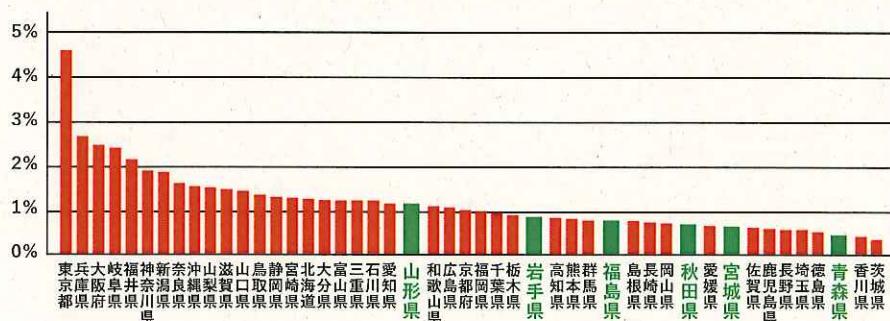
※5 ソウルは国土交通省調べによる2011年の状況(ケーブル延長ベース)

※6 ジャカルタは国土交通省調べによる2014年の状況(道路延長ベース)

※7 日本は国土交通省調べによる2013年度末の状況(道路延長ベース)



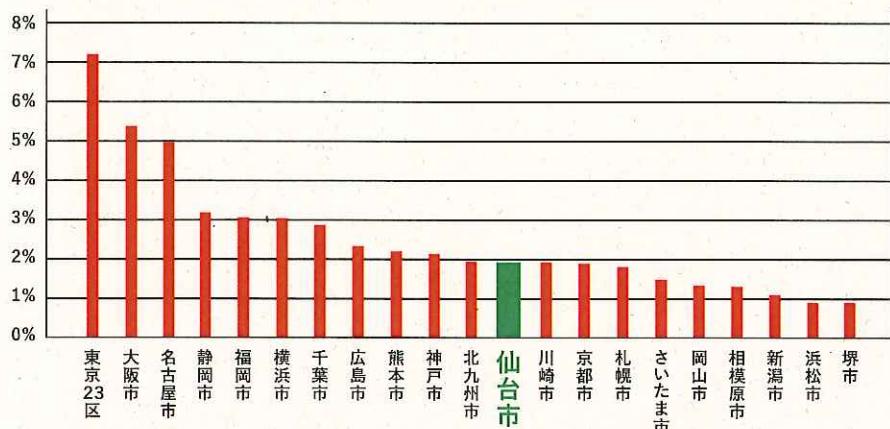
無電柱化の整備状況(都道府県)



東京、大阪、兵庫等の大都市部で比較的整備が進んでいるが、最も無電柱化率が高い東京都でも、無電柱化されている道路は5%弱です。

※ 全道路(高速自動車国道及び高速道路会社管理道路を除く)のうち、電柱、電線類のない延長の割合(H25年度末)で各道路管理者より聞き取りをしたもの

無電柱化の整備状況(特別区、政令市)



政令市等でも無電柱化は進んでおらず、無電柱化率が5%を超えてるのは、東京23区、大阪市及び名古屋市ののみです。

※ 全道路(高速自動車国道及び高速道路会社管理道路を除く)のうち、電柱、電線類のない延長の割合(H25年度末)で各道路管理者より聞き取りをしたもの

無電柱化の整備事例 ①

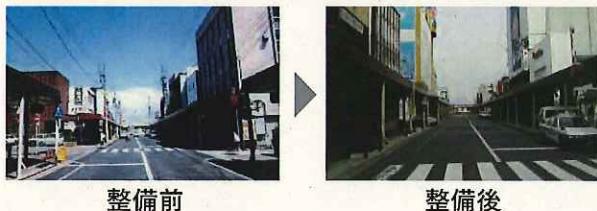
(一) 五所川原停車場線

青森県

- 主な目的／景観・観光
- 事業箇所／青森県五所川原市大町
- 整備のポイント

- 一世紀ぶりの祭りの再現と、祭りの演出効果の向上に配慮しました。
- 電力地上機器は、周辺環境に調和する色彩(ブラウン)を採用しています。

電線類地中化整備前後の様子



立佞武多 一世紀ぶりの復活



『電線類の地中化』にあたっては、歩道のバリアフリー化を図るとともに、防災対策や都市景観の向上にも配慮しました。

『電線類の地中化』を行うことで、「立佞武多」は毎年百万を超える観光客が訪れる一大イベントに発展し、商店街並びに地域の活性化が図られました。

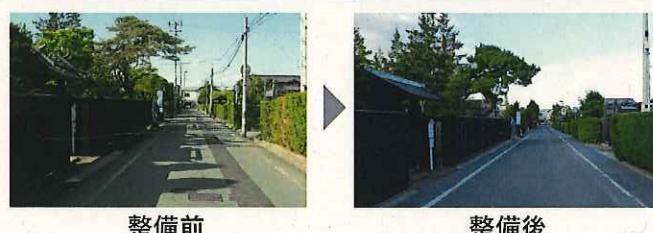
(市)亀甲・若党町線

青森県

- 主な目的／景観
- 事業箇所／青森県弘前市大字若党町～小人町
- 整備のポイント

道路幅員が狭く歩道もないことから、地上機器を設置する場所がなかったため、地域住民と調整・連携し、民地を用地買収の上、地上機器を設置することで歩行空間の確保と景観の向上が図されました。※本路線は伝統的建造物群保存地区に位置しています。

電線類地中化整備前後の様子

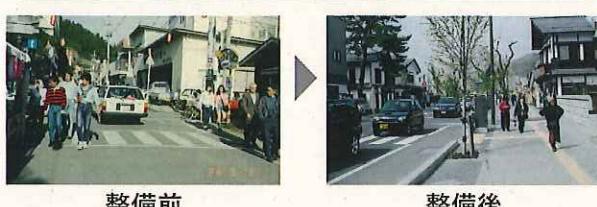


(一) 日三市角館線

秋田県

- 主な目的／景観・観光
 - 事業箇所／秋田県仙北郡角館町横町
 - 整備のポイント
- 分かりやすい歩行者導線の確保に配慮しました。
 - 歴史的景観の向上に配慮しました。

電線類地中化整備前後の様子



歴史・文化・ 観光のまち 角館の道づくり



『電線類の地中化』にあたっては、沿道に立ち並ぶ商店が周囲の景観に配慮した外装を行っており、これらと一体となった整備を行いました。

『電線類の地中化』を行うことで、観光客および沿道住居者の安全で快適な歩行空間が確保されました。